

第3学年 体育科学習指導案

指導者

1 単元名 「とび箱運動」(全7時間)

2 学習を進めるにあたって

めざす子どもの姿

- 自分の力に合った基本的な支持跳び越し技(切り返し系, 回転系)ができる子ども(技能)
- 安全に気をつけて, 進んで運動に取り組み, 友達との関わり合いの中で運動の楽しさや喜びを感じることができる子ども(態度)
- 友達の動きのよいところを見つけ, 自分の力に合った課題を選んだり, 練習方法や場を選択することができる子ども(思考・判断)

こんな教材で こんな学習過程で

- いろいろな向きや高さの跳び箱のできる技をよりよくして, ふわっとした心地よさを味わったり, 練習方法を工夫しながらできそうな技に挑戦してできるようになった喜びを味わったりすることが楽しい運動である。
- 2年生の「とびばこあそび」の学習を想起し, できる動きをする時間を設定する。
そして, 子ども達が作った動きを交流しやすいように掲示し, そのなかでも, 「跳び上がる」「跳び下りる」「跳び越す」の多様な動きを十分に組みこませる。
- 子ども達が作った動きを元に, 「開脚跳び」「かかえこみ跳び」「横跳び」「台上前転」の4つの技を紹介し, 財産調べを行う。
- 財産調べをもとに, 今できる技で, 高さに挑戦したり, 跳び箱の向きを変えたり, フォームのうつくしさや, 友達との協力を楽しむ「めあて1」, 場を工夫したり, 友達にアドバイスしあったりして, できそうな技に挑戦して楽しむ「めあて2」のスパイラル型の学習を取り入れる。
- 各時間の始めには「ぐんぐんタイム」を設定し, とび箱運動につながる基礎・基本となる動きの感覚を身につける運動を行う。

こんな支援で

- ① 評価規準の活用
運動の特性や児童の実態をふまえ, 評価規準を設定し個に応じた支援を行う。
- ② 教師の声かけ・友達との関わらせ方
「踏み切り→着手→空中姿勢→着地」の一連の流れを図示した「ステップカード」に練習の仕方を明記したものを準備して練習をアドバイスする。また, お互いに見合うときの視点をステップカードに明記しておく。
- ③ 学習ノートの工夫
めあて1では, 自ら上達を実感している感覚や技を使った楽しみ方などが意識できるノートにする。めあて2では, 自分が取り組む技が記入できるようにする。また, めあてのヒントになるように, 技ができるようになるためのポイントや練習方法を前時のふりかえりや準教科書を参考にしながら記入させる。
- ④ 場の作り方
めあて1では, 楽しみ方別にグルーピングし, めあて2では, 互いに見合い相手にアドバイスができるように課題別にグルーピングする。その際, 課題別に工夫した場作りをするように支援を行う。

こんな子どもだから

- 体育の学習が大好き・どちらかと言えば好きの子どもが28名。
- とび箱運動が大好き・どちらかと言えば好きの子どもが25名。
- とび箱運動の学習で楽しいと感じるのは「できたときのうれしさ」「友達と一緒に学習する楽しさ」「とびあがる楽しさ」嫌だなと感じるのは「できない」「友達と教え合えない」「場の工夫がわからない」。
- 2年生の跳び箱遊びでは, 両手で体を支持する感覚や空中でのふわっとした感覚, 着地のときのバランス感覚に触れながら楽しんできている。
- 準備・後片付けで自分の役割を責任持って行うことや協力して行えるようになってきている。
- 今できる技で楽しむことや, できそうな技に意欲的に挑戦したりすることができるようになってきている。
- できそうな技に挑戦するときどんな場の工夫をすればいいかわからない子どももいる。
- グループでの教え合い活動をあまり経験していないため, お互いに教え合う, 見合うという活動は慣れていない。そのため漠然と見てしまったり, 自分の練習に精一杯という子どもも見られる。

第3学年1組 体育科学習指導案（本時案）

指導者

1 本時 平成24年 月 日（ ） 体育館にて

2 本時の中心となる評価規準

- 自分の課題に合った練習方法や場を考えることができる。（思考・判断）
- ふみきり、着手、着地を意識してとび箱運動をすることができる。（技能）

3 本時学習を進めるにあたって

前時までに子ども達は、「跳び上がる・跳び下りる・跳び越す」動きを経験し、その動きが跳び箱運動の技につながる事がわかり、どの技ができるかの財産調べを行うことができた。また、第4時から、自分のできる技とそうでない技を基に、高さや向きなどに挑戦してとび箱運動を楽しんだり、もう少しでできそうな技に場を工夫したりしながら挑戦してきた。

そこで本時では、めあて①で今自分ができる技で、向きや高さなどを楽しみながらより完成度を高めるとび箱運動をさせていく。そのために、めあて①では、それぞれの場をまわり、ふみきり・着手・着地を意識して取り組んでいる児童を称賛し、全体に広げていく。また、めあて②では、自分の課題にあった場や練習方法を選び、同じ場の友達と関わり合いながら、できそうな技に挑戦していく。そのために、必要に応じて、ステップカードを提示し、児童の技の習得に生かしていきたい。学習のまとめでは、友達のよいところを見つけたり、技のポイントなどの関わり合いができた児童を称賛して、全体に広げていきたい。

4 準備

とび箱、マット、踏み板、ケンステップ、CDデッキ、掲示物、踏み切り板調節器、セーフティマット

5 展開（6/7時）

分	子どもの主な学習活動	教師の支援活動
0	1. 学習の準備とめあての確認をする。 ○協力して、安全な場作りをする。 ○ぐんぐんタイムをする。 ・重ねマットで前転・うさぎとび（腕支持感覚） ステージへの跳び上がり、跳び下り（腕支持感覚・着地感覚）	○安全に気をつけて場作りができていないか確認する。 ○音楽を流しながら楽しい雰囲気ぐんぐんタイムを行う。
5	○めあての確認をする。	
10	2. めあて①の活動を行う。 めあて① 今できる技で、いろいろな向きや高さの跳び箱を跳んで楽しもう。 （楽しみ方）○高い段のとび箱を跳ぶ。 ○ふみ切りを遠くにして跳ぶ。 ○とび箱の向きを変えて跳ぶ。 ○着地のきよりをのばす。	○ふみ切り・着手・着地を意識して取り組む児童を称賛していく。 ※ふみ切り・着手・着地を意識して技に取り組もうとしている。（観察）
25	3. めあて②の活動の準備をする。 （挑戦する技）・開脚跳び ・横跳び ・台上前転 ・かかえこみとび （児童の活動） ○ステップカードをもとに練習の場を作ったり、作りかえたりする。 ○ステップカードやボードをもとに、技のポイントを友達とアドバイスしあいながら練習する。 ○友達のよいところを見つけ、伝え合う。	○課題解決がうまくできていない児童やグループに、ステップカードを提示したり、必要に応じて補助をしたりする。 ※自分の課題にあった練習方法を選んで活動している。（観察） ※友達の動きのよいところを見つけ、伝え合おうとしている。（観察）
35	4. 学習ふり返り、次の学習の見通しをもち後片付けをする。 ○学習ノートに記入する。 ○全体交流をする。	○できるようになったことや友達のよいところなどを発表させ、称賛し、次時への意欲を持たせる。
45		

